

令和5年度  
(2023年度)

学校評価報告書

茨城県立中央看護専門学校  
学校評価委員会

# I 学校の現況

## 1. 設置目的

本校は、保健師助産師看護師法の助産師又は看護師として必要な知識及び技術を修得させ、豊かな人間性を養い、専門職業人としての自覚と責任をもって社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

## 2. 沿革

- 昭和 29 年 県立准看護婦養成所設置(修業年限 2 年 定員 60 名)
- 昭和 37 年 県立高等看護学院設置(課程変更)(3 年課程 定員 90 名)
- 昭和 40 年 県立公衆衛生看護学校を統合、県立看護専門学校と改名
  - ・公衆衛生看護学科(修業年限 1 年 定員 25 名)
  - ・臨床看護学科(3 年課程 定員 120 名)
- 昭和 45 年 公衆衛生看護学科を保健助産学科に変更・保健助産学科(修業年限 1 年 定員 25 名)
- 昭和 54 年 保健助産学科を助産学科に変更(修業年限 1 年 定員 25 名)
- 昭和 56 年 臨床看護学科を看護学科に変更(修業年限 3 年 定員 150 名)
- 昭和 59 年 現在地に移転
- 平成 2 年 学生寮竣工、学院歌制定
- 平成 3 年 創立 30 周年像「薫風」建立(日展理事 能島征二氏制作)
- 平成 14 年 専修学校に認可
- 平成 16 年 県立水戸看護専門学院を統合 県立中央看護専門学校と改名 講義棟増築
  - ・助産学科(定員 15 名)
  - ・看護学科 3 年課程(定員 120 名)・看護学科 2 年課程(定員 160 名)
- 平成 19 年 助産学科定員変更(定員 25 名)
- 平成 24 年 創立 50 周年記念「天使の椅子」建立(日展理事 能島征二氏制作)
- 平成 25 年 看護学科 2 年課程定員変更(定員 80 名)
- 令和 4 年 保健師助産師看護師養成所指定規則改定により、助産学科・看護学科 3 年課程の教育課程改正
- 令和 5 年 保健師助産師看護師養成所指定規則改正により、看護学科 2 年課程の教育課程改正

## 3. 教育理念等

### <教育理念>

学生の個性や主体性を尊重し、全人的な存在としての自己および他者の理解に目を向けられる豊かな人間性と倫理性を育む。また、専門職業人として、生涯学び続け、他の専門職などと連携・協働し、社会の動向を見据え、常に必要かつ最高の看護を提供し、人々の健康と福祉の向上に貢献できる実践者を育成する。

### <教育目的>

助産師又は看護師として必要な専門的な知識及び技術を修得させ、豊かな人間性を養い職業人として自覚と責任をもって社会に貢献できる有能な人材を育成する。

## 4. 学生数及び教職員数

### <学科及び学生数>

学科	入学定員	修業年限	4 月現員	R6 年1月 1 日現在の在籍者
助産学科	25 人	1 年	21 人	21 人
看護学科 3 年課程	40 人	3 年	116 人(男5・女111)	115 人(うち休学 2 人)除籍 1 人
看護学科 2 年課程	40 人	2 年	37 人(男4・女33)	34 人(うち休学 1 人)
合計	225 人	—	174 人(男9・女165)	173 人(うち休学 3 人)

### <教職員>

\*( ) 専任教員研修受講中

	学校長	副参事	教 頭	事務員	助産学科	3 年課程	2 年課程	合計
管 理	1	1						2
教 員			1		6	12(1)	8	27(1)
庶 務				3				3
会計年度任用職員				2		2	1	5
合 計	1	1	1	5	6	14(1)	9	37(1)

## II 学校評価について

### 1 はじめに

本校は、社会に貢献する質の高い助産師・看護師の育成において、その教育活動における弱点を改善するため、平成 17 年度より自己評価を開始した。

平成 25 年 3 月に、文部科学省生涯学習政策局通知より「専修学校における学校評価ガイドライン」が示され、そのガイドラインを基に検討を重ね、平成 27 年度より新たな評価項目による自己評価を実施した。評価結果の公表は、平成 25 年度より実施している。

さらに、自己評価の客観性・透明性を高めるため、令和元年度より、学校評価の運営方針及び運営方法を再整備し、より広い視野から評価を頂けるよう学校関係者による外部評価「学校関係者評価」を開始し、教育機関としての組織力・教育力の向上を図る。

### 2 評価の基本方針

- (1) 学校の教育目標、計画に沿った取組の達成状況、学校運営への取組が適切に行われたかを自己評価し、改善すべき事項及びその対策について明確にするとともに、その結果を公表する。
- (2) 学校と密接に関連する地域関係者・行政・教育関係者・実習施設の指導者・卒業生等の立場から自己評価の結果を客観的に評価していただき、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、教育活動の質の向上、地域関連機関との連携強化を目指す。その結果は自己評価と同様、ホームページに掲載し広く社会に公表する。

### 3 評価体制

- (1) 学校評価委員は学校長、副参事兼教頭、教頭、各学科教務主任、各学科専任教員3名の 10 名。  
必要な事項は実施要綱に定めて管理・運営している。
- (2) 学校関係者委員は実習施設から2名、教育機関から2名、卒業生代表(同窓会会長)・行政から各 1 名の6名体制である。

### 4 評価の種類

- (1) 教職員が学校運営評価表を用いて学校運営全般を自己評価する「教職員による学校運営自己評価」
- (2) 令和5年度の重点目標(組織目標)達成に向けた取組状況を評価する「重点目標の評価」
- (3) その他として次の取組みを評価
  - ・学生の学校生活満足度調査結果
  - ・公開授業「基礎看護技術演習」に参加した臨地実習指導者からのアンケート調査結果

### Ⅲ 教職員による学校運営自己評価

#### 1 評価項目

	大項目(10)	中項目 (44)	小項目数(127)
1	教育理念・目標	1) 教育理念等の設定 2) 教育理念等の到達評価 3) 学校の将来構想の明確化	2 1 1
2	学校運営・管理	1) 学校経営 2) 組織の整備 3) 危機管理 4) 情報管理 5) 教職員の協働意欲	4 10 3 3 2
3	教育活動	1) 教育課程の編成 2) 学生支援ガイダンス 3) 科目担当時間 4) 対象者への実習協力依頼 5) 授業方法の工夫・研究 6) 授業評価 7) 単位の管理 8) 教員の育成	5 4 4 2 5 3 4 7
4	学修成果	1) 資格取得 2) 看護実践力 3) 就業率・進学率 4) 国家試験不合格書のフォロー体制 5) キャリア支援	2 1 2 1 1
5	学生支援	1) 学習支援 2) 健康管理・感染・安全管理 3) 進路・就職支援 4) 学生相談の整備 5) 生活環境支援体制 6) 保護者との連絡体制 7) 経済的支援	3 4 2 2 1 2 2
6	教育環境	1) 校舎の整備 2) 福利厚生 3) 図書室の整備・管理 4) 教材の整備・管理 5) 実習施設の整備 6) 実習指導体制	2 4 4 3 3 3
7	学生の受け入れ募集	1) 学生募集 2) 入学選抜方法 3) 学生の充足	5 4 3
8	財務	1) 予算執行状況・財務	3
9	法令等の遵守	1) 法令・専修学校設置基準等の整備・運営 2) 個人情報に関する規程の整備 3) 学校評価の実施、結果の公表	1 2 3
10	社会貢献・地域貢献	1) 学校の教育資源・施設の活用 2) 学生ボランティア活動 3) 学生の地域との交流支援	2 1 1

#### 2 自己評価の実施

対 象: 教職員 31 名(学校長、会計年度職員除く) 内訳: 教員: 28 名、副参事・庶務: 3 名

基 準 日: 11 月 30 日

調査期間: 令和 5 年 11 月 30 日～12 月 5 日

調査方法: 校内ネットワークを用い、教職員個別にデータを入力。入力データをもとに集計。

評価基準: 4段階尺度: 4-とてもそう思う 3-まあまあそう思う 2-あまりそう思わない 1-そう思わない

有効回答: 100%

### 3 評価項目(大・中項目)の評価結果

(1)評価項目(大・中・小) ※助産学科・3年課程・2年課程・庶務の評価 (R4は参考値) \*2ポイント台は赤字

大項目	全体評価 (参考R4)	中項目	助産		3年課程		2年課程		庶務	
			R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4
1 教育理念等	3.5 (3.5)	1-1 教育理念等の設定	3.9	3.8	3.8	3.7	3.6	3.4	3.3	4.0
		1-2 教育理念等の到達評価	3.7	3.6	3.0	3.4	3.3	2.9	3.2	4.0
		1-3 学校の将来構想の明文化	4.0	4.0	3.2	3.3	3.4	2.9	3.2	3.0
2 学校運営・ 管理	3.5 (3.5)	2-1 学校経営	4.0	4.0	3.2	3.7	3.8	3.7	3.4	3.7
		2-2 組織の整備	3.8	3.6	3.0	3.0	3.5	3.2	3.2	3.3
		2-3 危機管理	4.0	3.9	3.4	3.6	3.4	3.4	3.2	3.3
		2-4 情報管理	3.8	4.0	3.6	3.7	3.5	3.6	3.2	3.9
		2-5 教職員の協働意欲	3.8	2.9	2.8	2.8	3.5	2.9	3.3	3.7
3 教育活動	3.6 (3.7)	3-1 教育課程の編成	4.0	3.8	3.3	3.3	3.8	3.5	3.4	3.9
		3-2 学生支援・ガイダンス	3.9	4.0	3.8	3.8	3.5	3.8	3.4	4.0
		3-3 科目担当・時間	3.5	3.4	2.8	3.1	3.6	3.2	3.2	3.7
		3-4 対象者への実習協力依頼	3.9	4.0	3.8	3.9	3.7	3.9	3.1	3.9
		3-5 授業方法の工夫・研究	3.9	3.4	3.2	3.2	3.6	3.3	3.4	3.8
		3-6 授業評価	3.9	3.9	3.6	3.9	4.0	3.7	3.5	3.9
		3-7 単位の管理	4.0	4.0	3.7	3.7	3.8	3.7	3.5	4.0
		3-8 教員の育成	3.6	3.9	2.9	3.2	3.5	3.2	3.2	3.8
4 学修成果	3.6 (3.7)	4-1 資格取得	4.0	4.0	3.4	3.6	3.6	3.8	3.2	4.0
		4-2 看護実践力	4.0	3.8	3.2	3.5	3.9	3.2	3.4	3.8
		4-3 就業率・進学率	3.8	4.0	3.8	3.7	3.8	3.6	3.2	3.9
		4-4 国試不合格者のフォロー体制	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	3.5	3.2	3.8
		4-5 キャリア支援	4.0	3.8	3.3	3.5	3.9	3.1	3.2	3.8
5 学生支援	3.7 (3.8)	5-1 学習支援	3.8	3.9	3.5	3.6	3.8	3.6	3.2	3.9
		5-2 健康管理・感染・安全対策	4.0	4.0	3.6	3.8	3.9	3.8	3.4	3.9
		5-3 進路・就職への支援	3.8	3.8	3.5	3.7	3.9	3.5	3.2	3.9
		5-4 学生相談の整備	4.0	4.0	3.8	3.9	3.8	3.7	3.4	4.0
		5-5 生活環境支援体制	3.8	4.0	3.6	3.9	3.9	3.6	3.2	4.0
		5-6 保護者との連絡体制	4.0	3.7	3.7	3.6	3.9	3.3	3.3	3.7
		5-7 経済的支援	4.0	4.0	3.6	3.9	3.9	3.9	3.1	3.9
6 教育環境	3.6 (3.6)	6-1 校舎の整備	3.9	3.9	3.5	3.3	3.4	3.4	3.0	3.3
		6-2 福利厚生	4.0	4.0	3.7	3.8	3.8	3.7	3.4	4.0
		6-3 図書室の整備・管理	3.9	3.9	3.6	3.8	4.0	3.5	3.3	3.9
		6-4 教材の整備・管理	4.0	3.7	3.4	3.5	3.9	3.2	3.1	3.7
		6-5 実習施設の整備	3.9	3.9	3.4	3.6	4.0	3.5	3.2	3.9
		6-6 実習指導体制	3.9	3.8	3.3	3.2	3.9	3.4	3.3	3.8
7 学生の受 入れ・募集	3.5 (3.5)	7-1 学生募集	4.0	3.9	3.6	3.8	4.0	3.6	3.4	3.9
		7-2 入学選抜	4.0	4.0	3.6	3.9	4.0	3.7	3.5	3.9
		7-3 学生の充足	3.2	3.1	3.4	3.7	2.8	2.4	2.8	2.4
8 財務	3.6(3.6)	8-1 予算執行状況・財務	3.9	3.8	3.3	3.5	3.7	3.4	3.5	3.5
9 法令等の 遵守	3.7 (3.9)	9-1 法令・専修学校設置基準等の整備	4.0	3.9	3.6	3.8	4.0	3.8	3.2	3.9
		9-2 個人情報に関する規程の整備	4.0	4.0	3.7	3.8	4.0	3.6	3.2	3.8
		9-3 学校評価の実施結果の公表	3.9	4.0	3.6	3.9	3.9	3.7	3.3	4.0
10 社会貢献・ 地域貢献	3.6 (3.5)	10-1 学校の教育資源・施設の活用	3.9	4.0	3.7	3.8	3.7	3.4	3.4	3.3
		10-3 学生の地域との交流支援	3.8	—	3.4	—	3.9	—	3.2	—

(2)大項目評価と要因 ( )は前年度

大項目	評価	要 因
1 教育理念等	3.5 (3.5)	年度当初に運営方針や重点目標などを教職員に周知し、その後の教育活動に反映し、目標設定している。
2 学校運営・管理	3.5 (3.5)	今年度から業務の効率化を目的に、チーム制(学年運営・実習指導)を開始し、担当業務の見直しを図った。低い項目は、教職員の業務の調整、管理体制の整備、職員の協働意欲、ICT 活用による業務の効率化であった。今年度からチーム制となり、慣れない体制により業務が繁雑化したこと、さらに新旧カリキュラム運営による新科目の対応など、各教員の業務量は以前より多くなっていることが要因である。Wi-Fi が整備され、3 年課程 1 年生は電子テキスト導入となった。しかし、教員の iPad 活用や ICT 推進には課題がある。
3 教育活動	3.6 (3.7)	評価が低い項目は、科目担当時間と教員の育成であった。学生対応や新カリキュラム運用開始となり、新・旧カリキュラムの運営、チーム制導入による業務の不慣れさの影響を受け、実習指導の準備時間を計画的に業務時間内に組み入れることが困難であった。また、新任教員の特性に合わせた教育サポート体制が難しい現状が要因と考える。さらに、各教員はカリキュラム運営上、専門領域外の授業や実習担当をせざるを得ないことも要因である。新任教員の受け入れ体制の整備及び教員のキャリアを育成するためのラダー制度を次年度から新任教員を手始めに段階的に運用を開始する。
4 学修成果	3.6 (3.7)	卒業までの技術到達度の達成状況の評価が不十分であるため、臨地実習での積極的な経験に及んでいない。卒業生へのキャリア支援については、来校時に相談に応じ、キャリアアップにつなげている。
5 学生支援	3.7 (3.8)	チーム制となり学年担当教員がクラス運営に専念したことで、学年の特性や学生一人一人に合わせた支援が出来ている。学科内の学年・実習指導チームで情報共有し、教育進度にあわせて対応することが課題である。各学科とも、保護者との連携を密に行い、特性に合わせて学習支援への対応ができています。一方では丁寧に扱われる反面、各々の教員への個人的な心理的負担が多く感じられている。
6 教育環境	3.6 (3.6)	校舎の老朽化に伴い、トイレや雨漏りなど整備・管理、教材の整備・管理は評価が低い。オンライン授業の学習環境は整い、感染者に合わせて柔軟に対応できた。マイクやプロジェクターの不具合が生じている。学習教育環境の整備として、計画的に予算化が必要である。実習施設の整備では、他校との実習期間の重複により調整が難しい施設もある。また、実習指導の協力的体制が不十分である施設も確保せざるを得ないのが現状である。
7 学生の受入れ・募集	3.5 (3.5)	進学ガイダンス参加や、高校訪問はコロナ感染拡大の以前同様に積極的に再開した。また、感染対策を講じ、オープンキャンパスは対面(在校生参加)やオンライン、個別対応など、各学科で工夫して募集活動を実施した。しかし、看護学科 3 年課程・2 年課程では受験応募者の減少が著しく、倍率が低下し定員を満たすことができない状況が継続している。
8 財務	3.6 (3.6)	教員は年度当初の教職員会議で運営予算や決算状況について説明をうけ、運営会議や教頭・教務主任会議で定期的な報告を受けている。そのことにより財務関係の関心が深まったが、財務に関する理解は低い。
9 法令等の遵守	3.7 (3.9)	学校運営に必要な諸規程を整備し運営しているが、見直しは不十分である。また個人情報保護や情報セキュリティ研修を職員全員が受講を修了し、意識付けしている。
10 社会貢献・地域貢献	3.6 (3.5)	コロナ禍以前のように、ボランティア活動の依頼が少しずつ始まった。各学科で参加できるボランティアを検討して参加できた。

## IV 2023年(令和5年度)の重点目標に関する評価

### 1. 重点目標

#### (1)目標1 高い学力の育成と探求的な学習の確立

- ① アクティブ・ラーニング型の授業による能動的な学習を支援する
- ② 学生の習熟度に応じた指導を強化し、弱点克服及び学力向上を図る
- ③ 効果的な学習を支援するため、保護者との連携を強化する
- ④ 教育進度に応じた国家試験対策を実施し、資格獲得への支援を継続する
- ⑤ ICT教育の環境整備及び教育教材の充実に努める

#### (2)目標2 新入生の定員及び学生の総定員の確保

- ① 本校の魅力が伝わる学校訪問・学校説明会を行う
- ② カウンセラーと連携し、学生の学業継続に向けた支援を強化する

#### (3)目標3 組織の効果的及び効率的な運営の推進

- ① 業務上の効率化にむけ、組織改革を推進する
- ② 教員の質向上に向け、教員のキャリアラダー制度を整備する
- ③ 看護実践能力強化にむけて実習施設と教育連携を図る
- ④ 准看護師教育から看護教育2年課程へ教育の積み上げ式教育を推進する
- ⑤ 職員が相互に啓発・協働し支えあう風土を醸成し、効率的・効果的な組織運営を図る

### 2. 評価結果 ※助産学科・3年課程・2年課程・庶務の評価

#### (1)重点目標1 高い学力の育成と探求的な学習の確立

細目標 ( )は自己点検自己評価の小項目 NO	平均	小目標平均	助産	3年	2年	庶務
① アクティブ・ラーニング型の授業による能動的な学習を支援する。(3-5-47、3-5-48)	3.6	3.5	3.9	3.3	3.7	3.1
② 学生の習熟度に応じた指導を強化し、弱点克服及び学力向上を図る。(5-1-76、5-1-77)		3.7	3.9	3.6	3.9	3.2
③ 効果的な学習を支援するため、保護者との連携を強化する。(5-6-89、5-6-90)		3.7	3.9	3.7	3.9	3.2
④ 教育進度に応じた国家試験対策を実施し、資格獲得への支援を継続する。(4-1-68、4-1-69)		3.7	3.9	3.4	3.9	3.4
⑤ ICT教育の環境整備及び教育教材の充実に努める。(2-2-20、3-5-49、3-5-51)		3.3	3.5	3.1	3.3	3.3

#### 評価分析(取組状況、要因等)

- ① ・講義や演習で気付く力、考えて実践できる力を養うためアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、学生の主体性や考える力を引き出すよう学習方法を工夫して支援している。(全学科)  
・シミュレーション教育推進のためチーム活動が開始された。チームメンバーの外部研修受講や学会参加の報告会を開催し、学習成果を演習に一部導入して取り組んだ。(全学科)  
・11月に助産教育用シミュレーターが新たに設置された。卒業前技術演習に活用予定である(助産学科)
- ② ③学習成績やメンタル面に課題がある学生は、学年教員が個別に対応している。学校カウンセラーに積極的に相談し、学生相談に繋いでいる。また、成績低迷者、再実習学生の保護者へ連絡し、学習状況の理解を深める機会とし、連携を強化している。(全学科)
- ④ 国家試験対策として模擬試験・補習講義の年間計画を立案し実施中。模擬試験成績の推移をデータで分析し、面接、個別指導を実施している。学習環境確保のため保護者への協力依頼を全学科送付した。
- ⑤ 3年課程は電子教科書(iPad)を導入したが、ICTを活用した教育活動は課題がある。(3年課程)  
視聴覚教材の動画配信教材を今年度から導入したが、利用状況には学科差、科目差がある。(全学科)

**課題:**成人学習者である学生の主体性の醸成と学習への取組や意欲向上への支援。

**今後の取組:**・視聴覚教材を活用した講義・演習計画、実習への活用等の周知の機会を設け、視聴覚教材(動画配信)を積極的に活用したアクティブ・ラーニング型学習方法を講義や演習で実施する。  
・シミュレーション教育チームの活動を継続し、他教員への教育推進及び学科共有の演習シナリオ作成を目指す。  
・保護者との連携を強化できる機会の計画立案・実施・評価の継続。

## (2)重点目標2 新入生の定員及び学生の総定員の確保

細目標 ( )は自己点検自己評価の小項目 NO	平均	小項目平均	助産	3年	2年	庶務
① 本校の魅力が伝わる学校訪問・学校説明会を行う。 (7-1-125、7-1-127~128)	3.7	3.9	4.0	3.7	4.0	3.8
② カウンセラーと連携し学生の学業継続に向けた支援を強化する。(5-4-86~87、7-3-136~137)		3.5	3.6	3.7	3.5	3.1

### 評価分析(取組状況、要因等)

- 過去の受験状況を踏まえ、県内高等学校(37校)・准看護師養成所(4校)・看護師養成所(18校)・就業施設(12施設)を抽出し、6月から訪問した。(延べ71施設)訪問時の情報を共有し、入学試験に生かしている。2年課程では、近県の准看護師養成所に学校案内を送付し広報している。  
・業者主催の進学ガイダンスには、ほぼ参加している。(12月末17校、延べ142人)専門学校合同説明会では、参加者自体が減少し、大学志向が顕著である。  
・今年度から、在校生参加でオープンキャンパスを開催した(3年課程:3回 延べ参加者216人)(2年課程:5回 延べ参加者21人)(助産学科:2回対面・オンライン、延べ参加者147人)。アンケート結果から在校生との交流会が最も満足度が高く、受験者の志望動機に繋がっている。学校案内リーフレット、ホームページ等は学校の特色をPRできるように係担当教職員が毎年更新している。
- 休学・退学者軽減のため、学習成績や学校生活面の変化を早期に捉え、カウンセラーにコンサルしている(3月末現在3名のカウンセラーで延べ404人のカウンセリング実施)。学校とカウンセラーの連携強化のため、今年度からカウンセラーとのミーティングを定期的(月1回)実施している。  
・年間の学年運営計画に基づき、定期的に個人面接を実施、その他必要時は個別に対応している。学科内で学生特性に合わせた対応は共有しているが、学年チームと実習指導チームの連携の強化は課題。  
・休学・退学の意向がある場合は、これまで経緯、要因等を担任から報告(学生・保護者と複数回の面談結果)を受け、支援方法を検討しながら決定している。

**課題:** ①受験生、入学生及び学生定員の確保(全学科)  
②学生個々の特性に合わせた対応を基本にした学業継続支援(全学科)

### 今後の取組

- 学生確保  
・高校訪問、進路ガイダンス参加は継続  
・在校生参加のオープンキャンパスを継続(全学科)。  
・5月からオープンキャンパスを開始するとともに、入試日程を前倒して実施し早期に入学生を確保する(3年課程)  
\*高校の進路指導担当者によれば、生徒は早い時期に確実に入学を決めたい傾向があるとのことから、入試期日を1ヶ月早めて設定する。  
・受験生確保のため、推薦入試要件を検討し県外者の推薦受験者を可能とする(2年課程)。
- 学業継続支援  
・学生の特性に合わせた支援ができるよう学年、実習チームの連携を強化して、効果的に支援する。  
・多様な背景をもつ学生が、学校生活の悩みや学業継続、進路に関する相談をタイムリーに相談できるよう、学生相談体制を継続。

## (3)重点目標3 組織の効果的及び効率的な運営の推進

細目標 ( )は自己点検自己評価の小項目 NO	平均	小項目平均	助産	3年	2年	庶務
① 業務上の効率化にむけ組織改革を推進する(2-1-12~13)	3.4	3.4	4.0	2.7	3.7	3.2
② 教員の質向上に向け、教員のキャリアラダー制度を整備する(2-2-21~22、3-8-62~65)		3.3	3.6	3.1	3.5	3.1
③ 看護実践能力強化に向けた実習施設との教育連携を図る(3-5-50~51)		3.5	4.0	3.2	3.4	3.3
④ 准看護師教育から看護教育2年課程教育の積み上げ式教育を推進する(3-5-51)		3.4	4.0	3.2	3.3	3.2
⑤ 職員が相互に啓発・協働し支えあう風土を醸成し、効率的・効果的な組織運営を図る(2-5-29~30)		3.2	3.4	2.8	3.3	3.3



## 評価分析(取組状況、要因等)

- ① 看護学科3年課程・2年課程では、4月から組織改革として、チーム制による学科運営を開始した。各々の教員がこれまでの経験を生かし、学年運営チームと実習指導チームの業務を整理しつつ教育活動を実施した。チームの役割業務を修正・追加しながらの運営により、各々の業務負担が増した。円滑な学科運営のために、両チームは補完的に活動することが求められるため、柔軟な役割分担活動とさらに密な連携が課題となった。(3年課程、2年課程)  
助産学科では、これまでも学年担当・実習担当と担当業務は分かれていたため、より効率的な業務ができるよう Webex の活用による業務効率化を工夫して対応した。
- ② 今年度は新任教員のキャリアラダーを検討した。現状の新任教員研修を見直し、各項目の3年間の目標と研修内容を協議した。次年度から運用開始予定である。他に、シミュレーション委員会を設置し、委員会メンバーを中心にシミュレーション教育の充実を図った。あわせて委員メンバーが研修受講した内容を12月には全教員に向けて伝達講習を実施し、教員全体の教育力向上を目指している。2月にも第2回目を実施する予定。(全学科)
- ③ 基礎看護技術演習の公開授業を開始した。中央病院に協力いただき、臨地実習指導者10名が4種類の演習を見学できた。アンケート結果から、基礎教育の理解を深める機会となり臨地実習指導や新人教育に役立てる機会となっている事が把握できた。各実習前には各施設の打ち合わせ会議で実習内容の共有・評価を実施し、教育連携を図っているが、施設・指導者により実習指導の差がある。
- ④ 看護学科2年課程のカリキュラム改正にあわせ、3月に県内4つの准看護師養成所の教務主任及び専任教員を招き、カリキュラム内容の説明の機会として教育連携会議を開催した。准看護師養成所の教育内容や課題も把握できる機会となった。准看護師教育の積み上げ式として教育内容を精選してカリキュラムを構築し、今年度より新カリキュラム運営を開始した。3月に第2回開催する予定である。会議開催により顔が見える関係となるため、相互の教育内容の質向上にむけて継続する。
- ⑤ 組織改革1年目であり、体制の基盤づくりの年であった。教員の異動やチーム制初年度という背景があったが、学科・チームリーダーは、課題発生時には要因を探り解決に向け検討し、その都度対応した。役割や立場の理解が不十分であること、教育観の違いや教育実践力の差、コミュニケーション不足による連携・協働し合う風土の脆弱さなどが要因である。  
学校全体で、組織改革の根本は何か(何のための組織改革か)を再確認するとともに、教育理念・目標・教育方針、学科目標・3ポリシーに戻り、そのうえで各学科の課題に対する対策を整理・検討する必要がある。何より教員同士の連携・協働の脆弱さにより、学生支援・教育活動に影響を及ぼすことがないようにすることが必要である。

## 課題:(全学科)

- ① 働き方改革及び業務効率化のさらなる推進にむけた業務分担の見直し
- ② 新任教員の教育支援体制の明確化と支援計画の実施・評価、キャリアラダー制度の整備継続、シミュレーション教育の理解の均一化の推進、教育力向上にむけた研修企画
- ③ 公開授業の企画・運営、実習施設との教育連携の方略検討
- ④ 准看護師教育内容の理解を深め、教育内容を精選した教育活動。准看護師養成所との教育連携会議継続
- ⑤ 役割や立場を理解した連携・協働の風土づくり、心理的安全性が保てる職場環境。アサーティブコミュニケーションの獲得。

## 今後の取組み:

- ① チーム制継続
  - ・各チームの業務内容、役割分担の見直しとともに、各チームの連携強化に向けた対策の明文化
- ② キャリアラダー運用開始
  - ・新任教員の支援計画に基づき、オリエンテーション・研修・担当業務実施
  - ・支援する教員の役割の明文化
  - ・学校全体で新任教員を育成する意識を高める
- ③ 実習施設との教育連携強化
  - ・公開授業の継続、拡大
  - ・指導者会議の活用
- ④ 准看護師養成所十教育連携会議継続
- ⑤ 各々の立場や役割を理解(分析)したコミュニケーション、心理的安全性が高まる職場づくり
  - ・適切な指示、模範、手がかり、励ましの提供
  - ・成長を認め合う(承認・賞賛)肯定的フィードバック
  - ・アサーティブコミュニケーションの獲得

## V 令和5年度(2023年度) 学校関係者評価委員 意見取りまとめ

### 1. 学校関係者評価委員 6名

- ・外塚 恵理子(茨城県立中央病院看護局副総看護師長)
- ・箱守 千春(訪問看護ステーションやまびこ管理者)
- ・角 智美(常磐大学看護学部 准教授)
- ・津賀 宗充(茨城県立IT未来高等学校 学校長)
- ・下条 かおる(笠間市保健福祉部長)
- ・藤田 繁好(看護学科2年課程同窓会長)

### 2. 令和6年2月16日(金)学校関係者評価委員会開催の予定であったが、出席者数が規程に満たなかったため、書面審議とし、下記期間内に各委員に意見を聴取した

意見聴取期間:令和6年2月16日(金)~2月28日(水) 学校側は学校長・教頭が対応した。

### 3. 結果 \*各委員からの意見及び評価シート内容の集約

#### (1)学校評価自己評価について(大項目の評価)

- ・全体的に高評価であると感じる。
- ・項目7:学生の受け入れ募集については、人口減少の変化も影響している。学生充足に関する中・長期的な検討が必要。
- ・令和4年度と比較し、評価全体が低くなっている大項目が4つあるのが気になる。低下の分析がされているため次年度の改善を期待したい。
- ・学科による評価ポイントの差があるため、学科の差に対する分析も必要と思われる。
- ・新任教員の育成については、初等中等教育においても大きな課題の一つである。専門学校では、その分野の高い知識とスキル、育成に対する強い使命感が求められ、地域から求められる期待は高いことは共感できる。
- ・様々な手立てで、人材育成に取り組もうとしている貴校の姿勢に感銘する。
- ・業務がチーム制になったことで教育の質を高め、教員同士の連携も取りやすくなるのではないかと。今後はその成果が評価として上がってくるのではないかと。
- ・学校がよりよく変化することで、教員の負担が大きくなるのが心配である。チームの中での役割分担が必要である。
- ・他の看護学校との課題共有があると良い。

#### <委員からの質問>

##### ① 中項目2-5 教職員の協同意欲の低値は、今年度のチーム制導入による影響か

学校側回答→ 業務の効率化を目指してチーム制を導入した。導入1年目ということもあり、昨年までは複数人で対応していた業務内容が、各担当チームに割り振られた。事前に担当は分担したが、実際は、誰がいつ行うか、準備するか、できるか、対応するか、できるかなど、連携の在り方が課題として見えてきた。

質問者→効率化を目指すということは、時間がかかることもある。最低3年位は継続し評価してほしい。

##### ② 中項目7-3 看護学科2年課程の充足状況はどうか

学校側回答→ 通信課程が出来て以来、年々進学希望者が減少している。オープンキャンパスを5回開催しているが、今年度の応募者は20名程度であり、入学予定者も定員の4分の1となっている。また県外の受験生が半数を占めている現状である。

質問者→ 説明を聞いて厳しい状況であることが理解出来た。同窓会としては継続してほしいが、現状を踏まえて県としての方向性を検討してほしい。

(2) 重点目標の評価について(評価委員から提出された重点目標の評価・意見の集計)

<評価基準>

4:とてもそう思う(良い)3:まあまあそう思う(やや良い)2:あまりそう思わない(やや不十分)1:殆どそう思わない(不十分)

重点目標1 高い学力の育成と探求的な学習の確立	平均	各委員の評価					
	3.7	4	3	4	4	4	3
<p>&lt;意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に高い評価ですが、コロナ禍ということもあり十分な臨地実習の環境でなかったかと思う。シミュレーション研修などの知識と実践の工夫に関する評価項目があるとよいと感じる。</li> <li>・積極的にシミュレーション教育の推進にも取り組んでおり、評価を得られる。</li> <li>・学生への支援も個別指導をするなど、丁寧にされている印象を受ける。</li> <li>・iPad 導入後の課題を明確にされると良い。(レポート作成)</li> <li>・アクティブラーニングに関する評価の差は、導入内容の差なのか分析があると良い。</li> <li>・カウンセラーや保護者との連携が行われ、きめ細やかな伴走型の支援が出来ている。</li> <li>・2回の公開授業の見学や報告書からも様々な取り組みにより、学生の学力向上、スキル向上を図ろうと理解できる。</li> <li>・学習環境・設備は他校と比較される部分であるため、充実する必要がある。</li> <li>・学生が満足していない部分には支援強化の必要性がある。</li> </ul>							
重点目標2 新入生の定員及び学生の総定員の確保	平均	各委員の評価					
	3.3	3	3	3	4	4	3
<p>&lt;意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生はSNSが発達し、コミュニケーションがとりにくい背景もあり、人間形成に関して不安感や支援を要する学生が増加している可能性もあるため、カウンセラーとの連携は引き続き検討が必要。</li> <li>・看護科になってからも各病院と調整し支援体制を整える必要があると思う。</li> <li>・貴校の特徴、良い点(国家試験100%、学費も安価、3年間で看護師)をアピールして学生を増やしてほしい。</li> <li>・在校生と交流を図れるオープンキャンパスは、新入生確保に有効であるため、継続を要望するとともに、周知に協力できることは協力していきたい。</li> <li>・学生の学業継続に向けた支援は、カウンセラーとの連携や保護者との情報共有等とフォロー体制が強化されている。</li> <li>・今後の取り組みが次年度実施できるか、明確ではない。(昨年度、小中学生に戴帽式に参加してもらう提案があった)</li> <li>・学生募集の課題は、高校でも共通課題である。生徒の満足度の向上が最重要である。</li> <li>・学校の魅力が一番のアピールとなるため、アクティブラーニング型の授業をオンラインでも実際に見てもらえるような工夫(インターネットでアピールするなど)を強化してほしいと思う。</li> </ul>							
重点目標3 組織の効果的及び効率的な運営の推進	平均	各委員の評価					
	3.7	4	3	4	4	4	3
<p>&lt;意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織改革、新任教員のキャリアラダー検討と改善に向けて積極的に取り組まれている。</li> <li>・心理的安全性はとても大切であり、今後の課題に入れてあるのはとてもよい。</li> <li>・今後の取り組みにもあるように、お互いの成長を認め合う肯定的フィードバックが必要と感じる。</li> <li>・さらに実習施設との強化をしていただきたい。</li> <li>・組織改革の初年度であったため、課題や業務負担がさらに増した事が現実だと思われる。今後の効果的な運営に期待したい。</li> <li>・様々な手立てで工夫されていることを公開授業でも伺っている。新たなシステムを構築する時は、一時的に業務は増えるし、特定の者に偏ることもある。</li> <li>・学校が大きく変わるときは、教職員全員で危機感を共有できると、一致団結し動きやすくなることは、過去の学校再編事例でも言われている。学校の目指すべき方向性がブレず、教職員が小さな成功体験を積み上げることが出来れば、より良いシステムになる。</li> <li>・業務の中での先生方の負担をきちんと理解しながら、改善していける組織づくりが頑張ってもらいたい。</li> <li>・先生方はとても大切な存在であり、負担も大きいので、職場の環境をよりよくして働きやすく出来ることを期待する。</li> </ul>							

## <学校評価全体に対する意見>

### 〔外塚委員〕

- ・学校として様々な新たな取り組みを行おうとしていることがよく分かった。学校が変わっていくことを楽しみにしている。
- ・シミュレーション教育で、少しでも臨床に近づいた状況で学内演習をすることによって、臨床での多重課題に対応することがイメージできようになってほしい。シームレスな教育を目指すことはとても大切。
- ・今年度から開始した公開授業は、指導者にとってとても良い影響があることが分かった。(アンケート結果から)ぜひ、次年度も継続してほしい。
- ・実習施設の教育支援室として基礎教育に対する考え方や関心を高めていけるよう連携強化に協力したい。

### 〔箱守委員〕

- ・今年度の実習生は、学校の教員に報告・連絡・相談することがとてもスムーズに出来ていた。チーム制などとの関連があるのかもしれない。(学生が相談したいときに、すぐに教員に連絡して対応ができていた)
- ・実習記録は手書きであることから記録時間を確保することが必要となり、貴重な実践の場(特に訪問看護)に行ける時間が減少しているのが残念である。
- ・今年度は計画を大きく立て、改革が動き始めたことで、されに変化していく年になると思う。
- ・アクティブラーニング型の授業と ICT とチーム制と数年かけて行うことを、この 1 年で動き始めていることに素晴らしい学校だと感じている。この良さが、今後入学してくる学生たちや多くの方々いろいろな形で発信し伝えていただきたい。

### 〔角委員〕

- ・先生方が積極的に取り組まれている様子が伺えた。先生方が輝いていると、学生もキラキラし、受験生も増加するという好循環が生まれる。次年度もぜひ継続して取り組んでいただきたい。
- ・国家試験全学科 100%合格というのは、素晴らしい実績である。学校の強みとして継続してほしい。

### 〔津賀委員〕

- ・公開授業では、演習場をたくさん見させていただいた。学生は、医療従事者になるという強い意志を持って学んでいることが理解できた。
- ・明確な目標を持つ方々の姿勢を改めて認識することができた。

### 〔下条委員〕

- ・各学年で良い教育支援のために、先生方が努力されている現状が伝わった。
- ・先生方や学生にとって、教育施設の充実は、学習支援の効率化や学習意欲の向上にもつながる。物品補充や修繕等に対して、速やかに予算付けをお願いしたい。
- ・地域で連携出来ることを相談して進めたい。

### 〔藤田委員〕

- ・業務の効率化を目指すということは、時間がかかることもある。最低 3 年ぐらいは継続して結果をみていく必要がある。
- ・受験生が志望校を決める際、教育環境(外観など)で選ぶことが多い。県に予算を計画的に要求し改善してほしい。
- ・実習では、実習担当の指導者がいることで学生も安心して実習できる。患者対応が中心となる現在の業務では精一杯の時もある。戸惑う学生の指導など、今までの学生より学生に多く関わっている。実習先での教育の保証という面で、指導者同士の情報交換が必要と考える。その意味でも教育連携会議はとても大切であると考えている。看護師を増やすために出来るだけ協力していきたい。

以上

## VI 学校運営評価の総括

・今年度の学校評価自己評価・重点目標及び学校関係者評価委員の評価結果から得られた課題と次年度の取り組みについて

### ○重点目標の評価(自己評価・学校関係者評価の結果比較)

目 標	教員の自己評価	学校関係者評価
1 高い学力の育成と探求的な学習の確立	3.6	3.7
2 新入生の定員及び総定員の確保	3.7	3.3
3 組織の効果的及び効率的な運営の推進	3.4	3.7

### 今年度の課題及び次年度の取組

#### 1 学校運営・管理に対して

【課題】 組織運営上の課題改善に向けた取り組み

【次年度の取組】

- (1) 学年運営・実習指導チームの役割分担を整理し、業務の効率化に向けた取り組みを継続する。
- (2) 学科横断による教育活動により、教職員相互の協働意識を促進する。
- (3) 教員同士が相互に支え合い、組織の心理的安全性を高める風土を醸成する。
  - ① 各々の立場や役割を理解したコミュニケーション
  - ② 適切な指示、模範、手がかり、励ましの提供
  - ③ 成長を認め合う(承認・賞賛)肯定的フィードバック

#### 2 教育活動に対して

【課題(1)】 探求的な学習の確立に向けた取り組み

【次年度の取組】

- (1) アクティブラーニング型学習を強化し、学生が自ら考える力を育成する。
- (2) ICT 教育環境(視聴覚教材、iPad)の効果的な活用を推進する。
- (3) 保護者との連携を強化できる機会を計画し実施評価する。
- (4) カウンセラーと連携し、学生の学習継続に対する支援体制を強化する。

【課題(2)】 教育の質向上に向けた取り組み

【次年度の取組】

- (1) シミュレーション教育を教育活動に取り入れ、指導力の強化を推進する。
- (2) 臨地実習施設や他施設との連携強化を推進し、看護実践力・教育実践力の向上を目指す。
  - ① 公開授業の継続
  - ② 教育連携会議を企画・運営
- (3) 教員の能力開発のため、キャリアラダー活用に向けた計画を立案する。
- (4) 新任教員の OJT を見直し、段階的に教員としての基礎的な能力を養えるよう学校全体で育成する意識を高める

#### 3 学生の受入れ募集

【課題】 新入生の確保に向けた取り組み

【次年度の取組】

- (1) 積極的な学校訪問や進路ガイダンスの参加を継続し、当校の魅力を幅広く発信する。
- (2) 魅力ある学校案内に刷新するとともに、受験に結びつくオープンキャンパスを企画・運営する。
- (3) 受験生のニーズにあわせて入学試験の見直しを行い、入学生確保につなげる。